



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / イチゴ、アスパラガス、トマト、メロン、米

香田 敦郎さん (28歳) (営農地 / 直方市上新入)

地域の人とずっと一緒に、共に成長するのが農業

《就農のきっかけ》

農業はスポーツ

幼少より体を動かし汗を流すことが好きで、農作業の手伝いが嫌いではなかったと話す香田さん。体を動かす仕事に就きたいと考え、いずれ農業は継ぐだろうと漠然とですが就農する心積りでいたそうです。高校時代は体育科に通いましたが、卒業時に県農業大学校があることを知り、「農業を勉強したい」と考え県農業大学校へ進みました。県農業大学校では、農業を志すライバルが多い環境で刺激を受け、早く自分の土地で技術を身に着け一人前になりたいという思いが強くなり、卒業後すぐに就農することとなりました。

《これまでの過程》

試行錯誤の楽しみ

農業は白黒はっきりと「答え」ができる仕事ではないため、自分の行っていることが正しいことなのかいつも考え悩みながら取り組んでいると語る香田さん。就農当時は戸惑いながら栽培に取り組んでいたものの、今となっては試行錯誤することが楽しく、それが農業の魅力だと逆に感じているそうです。

また就農当時の栽培品目は、イチゴを主体にトマト、メロン、水稲の作付を行っていましたが、香田さんの就農をきっかけにアスパラガスも新たに加わりました。就農と同時に自分で責任をもって取り組む品目が欲しいと考え、当時地元では取組のなかったアスパラガスの栽培に挑戦しました。県農業大学校でアスパラガスに魅力を感じたこと、地元で誰も作っていないことからチャレンジされたそうです。



プロフィール

- 家族構成 / 祖母、父、母、兄、本人 ■営農年数 / 約8年
- 従業員数 / 3名(常雇1人、臨雇2人)
- 耕作(経営)面積 / 2.8ha ■販路 / JA共販、直売所

《これからの展望》

食育の場としての農業

今年からイチゴの高設栽培に取り組む香田さん。住宅地に近い立地条件を活かし、ゆくゆくは観光農園を行うことを視野にいられた挑戦です。将来の夢は、イチゴだけではなく四季を通して複数の品目の摘み取り体験や、野菜の宅配販売など、消費者との交流を持つ農業経営を目指しています。また「収穫したものをすぐ食べられる、それが美味しい」ということを学ぶ食育の場として、ハウスの提供も考えています。そして観光農園に取り組むにあたっては、地域の生産者と一体となって一農家では限界のある収穫の山谷をカバーし、常にどこかで摘み取り体験ができる体制を地域ぐるみで構築したいとも考えています。



Good 成功のためのポイント

農業という仕事は、自分一人で出来る仕事ではないと考える香田さん。このため消防団や4HC、JA青年部など地域の集まりや行事に積極的に参加し、地域に溶け込むことに心掛けています。「初めは腰が重たく参加したくないと思うかもしれませんが、農業をやっていくのであれば、地域の人とずっと関わりがあります。ずっと一緒に、共に成長しながらやっていくのが農業ですから」と語る香田さん。技術面においては、いきなり我流の栽培を行うのではなく、まず技術力の高い農家のまねをし、そこに自分の特徴・味を付け加えるのが一番の近道だと考えています。